

2025年度業務実績報告書

提出日

令和8年 1月 16日

1. 職名・氏名 准教授・中村英人

2. 学位 学位 博士（理学）、専門分野 自然史科学、授与機関 北海道大学大学院理学院、授与年 平成23年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

- ・地学概論（2単位）1年次
- ・化学基礎補講（単位なし）1年次

② 内容・ねらい

地学概論：太陽系から地球に至る自然の営み、地球の歴史、および生物の進化を体系的に教授することを目的とした。前半では固体地球科学、地質・古生物学等の基礎を扱い、後半では地球表層環境の形成過程や気候変動、自然災害と人間生活の関わりについて、古生物学や地質調査の基礎知識、地球環境の理解の基礎習得を目指して講義を行った。

化学基礎：2年次の専門科目（地球化学序論等）の学習を円滑に進めるため、高校化学・化学基礎の未履修者および復習希望者を対象とした補講を実施した。特に地球科学の理解に不可欠な化学の基礎項目の定着をねらいとした。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

講義内容の工夫：地学概論においては、限られた時間の中で教育効果を最大化するため、天体等の分野を敢えて割愛した。その分、固体地球科学から地球表層、生物圏の成り立ちと環境変化、および自然災害など人間社会へと繋がる知見を重点的に構成し、各分野の連携を意識した講義を展開した。

学習の動機づけと理解の定着：毎講義の冒頭でその回の重要な概念やキーワードを明示することで、学生が学習の主眼を把握できるよう配慮した。また、講義終了前には要点を押さえた振り返りの小テストを実施し、短時間で知識の定着を図るとともに、学生自身が理解度を確認できる機会を設けた。

リメディアル教育における役割分担：化学基礎補講では、自身の担当回（第7回・第8回）において専門分野に関連する有機化学の重要基礎項目を重点的に解説した。

(2)その他の教育活動

内容

大学院生への研究・学会発表指導：大学院科目「古生物学演習」に参画し、生物資源学専攻・古生物学種目の大学院生に対し、研究発表や論文紹介の指導に加わった。また、大学院生の学会発表における論理構成や資料作成のサポートを行い、若手研究者の育成に尽力した。

学外における地質調査・発掘の引率・指導：学生に対し、教室外での実践的なフィールド教育および研究サポートを実施した。(1) 北海道三笠・穂別地域：日本古生物学会（於：北海道大学）に参加した大学院生を引率し、白亜系地質調査、堆積岩の観察、試料採取の実地指導を行った。(2) 岩手県久慈市：早稲田大学・久慈琥珀博物館との共同発掘調査に学生を引率し、現場での発掘作業および地質巡検の指導を行った。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	Program and Abstract of the 6th International Symposium on Asian Dinosaurs in Japan 2025 (IMAI, Takuya; KAMIYA, Takahiro; KAWABE, Soichiro; <u>NAKAMURA, Hideto</u>; TAKATA, Hiroyuki 共編)、2025 年 9 月 25 日、ISAD2025 Organizing Committee (備考：シンポジウム要旨集の編集を担当。ISBN 978-4-907355-21-0) 【1 本】
② 学術論文 (査読あり)	【 本】
③ その他論文 (査読なし)	【 本】
④ 学会発表等	*1. 蝦夷層群羽幌川層堆積岩のバイオマーカー分析: チューロニアーンカンパニアン期の陸域古植生復元、第 42 回有機地球化学シンポジウム (2025 年 11 月 5 日)、高橋 温, <u>中村 英人</u>, 池田 雅志, 安藤 卓人, 沢田 健, 高嶋 礼詩, 西 弘嗣 2. 中海堆積物のアルケノン古水温変動: 汽水域のバイオマーカー古水温解析の検討、第 42 回有機地球化学シンポジウム (2025 年 11 月 5 日)、松田 佳奈, 服部 由紀, 安藤 卓人, <u>中村 英人</u>, 廣瀬 孝太郎, 沢田 健 3. 手取層群北谷層の植物バイオマーカーと側鎖伸長型ジテルペノイド候補群の GC×GC-TOFMS 解析、第 42 回有機地球化学シンポジウム (2025 年 11 月 5 日)、矢野 滉紀,<u>中村 英人</u>, 湯川 弘一, 樺島 文恵, 櫻井 昌文 4. 北海道根室層群堆積岩のバイオマーカー分析による古第三紀前期の古環境復元、第 42 回有機地球化学シンポジウム (2025 年 11 月 4 日)、吉田 達也, <u>中村 英人</u>, 林 圭一, 池田 雅志, 安藤 卓人 *5. Amber Terpenoids: Initial Chemical Insights into Resin-Producing Trees in the Cretaceous and Paleogene of Japan, The 6th International Symposium on Asian Dinosaurs in Japan 2025 (2025 年 9 月 27 日), <u>Nakamura, Hideto</u>; Ando, Takuto; Yano, Hiroki; Oyama, Nozomu; Kubota, Aya; Iba, Yasuhiro; Yamada, Toshihiro 6. Faculty of Dinosaur Paleontology, Fukui Prefectural University: a New Hub for Dinosaur Paleontology Education and Research in Japan, The 6th International Symposium on Asian Dinosaurs in Japan 2025 (2025 年 9 月 27 日), Nishi, Hiroshi; Kamiya, Takahiro; Ando, Hisao; Noriki, Sakon; Oishi, Yoshitaka; Kawabe, Soichiro; Shibata, Masateru; Takata, Hiroyuki; Tsuchiya, Masashi; Imai, Takuya; <u>Nakamura, Hideto</u>; Hattori, Soki; Oyama, Nozomu; Kinoshita, Shunichi 7. A Chemotaxonomic Approach to the Mesozoic Paleovegetation in Kitadani Dinosaur Quarry (Lower Cretaceous, Japan): Interpreting Biomarker Signals of Vegetation Heterogeneity and Wildfire, The 6th International Symposium on Asian Dinosaurs in Japan 2025 (2025 年 9 月 27 日), Yano, Hiroki; <u>Nakamura, Hideto</u>; Yukawa, Hirokazu; Ando, Takuto 8. 蝦夷層群羽幌川層堆積岩のバイオマーカー分析によるコニアシアン-サントニアン期の堆積環境復元、日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会) (2025 年 9 月 16 日)、高橋 温, <u>中村 英人</u>, 池田 雅志, 安藤 卓人, 沢田 健, 高嶋 礼詩, 西 弘嗣 9. 根室層群 (北海道東部) のバイオマーカー分析: 暁新世中期の気候変動に着目した陸上及び海洋生態系の復元、日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会) (2025 年 9 月 15 日)、吉田 達也, <u>中村 英人</u>, 林 圭一, 池田 雅志, 安藤 卓人 10. Preservation and Palaeochemotaxonomy of Aliphatic Biomarkers in the Mesozoic Plant Fossils from the Tetori Group, Japan, The 32nd International Meeting on Organic

Geochemistry (2025 年 9 月 10 日), Hiroki Yano; <u>Hideto Nakamura</u>; Hirokazu Yukawa 11. 中海の堆積物コアの藻類バイオマーカー分析による小氷期の古気候復元、日本地球惑星科学連合 2025 年大会 (2025 年 5 月 29 日)、松田 佳奈, 服部 由季, 安藤 卓人, <u>中村 英人</u>, 廣瀬 孝太郎, 沢田 健 12. バイオマーカーに記録された手取層群における前期白亜紀河川平野の堆積環境と自然火災、日本地球惑星科学連合 2025 年大会 (2025 年 5 月 28 日)、矢野 滉紀, <u>中村 英人</u>, 湯川 弘一, 安藤 卓人	【12 件】
⑤ その他の公表実績	【 本 】
(2) 科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】 1. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「生体・環境・地質試料に汎用可能な包括的分子骨格組成解析による分子化石研究の新展開」(研究代表者)、2023 年度～2025 年度 (継続) 2. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B)「新規開発の高温側古水温プロキシ・超長鎖アルケノンが拓く温室地球解読の新展開」(研究分担者)、2022 年度～2025 年度 (継続) 3. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「後期完新世の気候変動・人為的環境変化に対する水圏生態系の応答とメカニズム」(研究分担者)、2023 年度～2025 年度 (継続) 【学内】 1. ステップアップ研究支援 (令和 7 年度個人研究推進支援)「日本白亜系陸成層の分子化石相解析による中生代陸上植物相・古環境変動史の統合的復元」(中村英人)、2025 年度 (新規) 2. 戦略的課題研究推進支援・萌芽枠「第二の恐竜骨格層発見を目指した白亜紀層の地質調査と研究ネットワーク形成」(安藤寿男, 中村英人, 大山望)、2025 年度～2027 年度 (新規)	
(3) 特許等取得	
(4) 学会活動等	
学会での役職など (学会名) ・ 理事 (一般社団法人 日本有機地球化学会) ・ 学術変革領域研究(A)「日本列島域における先史人類史の統合生物考古学的研究」(領域代表: 山田康弘) B02 班 協力研究者、礼文島浜中 II 遺跡における調査および土壌有機物分析による考古学的研究の実施 (R7.8) 学会でのコメンテーター、司会活動 (担当報告名、担当学会 (大会) 名 (開催年月日)) ・ 一般口頭発表 4 セッション座長、日本有機地球化学会設立 50 周年記念第 42 回有機地球化学シンポジウム (2025 年 11 月 4 日～5 日) 学会・分科会の開催運営 (担当学会 (大会) 名 (開催年月日)、開催場所) ・ Organizing Committee、The 6th International Symposium on Asian Dinosaurs in Japan 2025 (2025 年 9 月 27 日)、福井県立大学	

5. 地域・社会貢献活動

①-4 委員就任（その他公益法人等）（それぞれの名称、業務内容、担当期間） ・ 理事（日本有機地球化学会）、学会運営および企画立案、R3.7～現在に至る ②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間） ・ 学術指導「幕末期における洋式船運用施設出土遺物の成分調査・研究」（佐賀市）、出土遺物の成分分析および分析データ解釈・技術指導、報告書作成、R7.10～R8.3 ⑥公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開講（タイトル名、開催場所、開催日時） ・ 福井県立大学恐竜学部連携講座「化石から読み解く生命と環境の進化史—恐竜学部からの最新報告—」：「分子化石で探る地球生命史と古環境」、中日文化センター 栄教室、R7.8.30

6. 大学運営への参画

(1)補職 ・ 福井県立恐竜博物館 主任研究員、R7.4～現在に至る
(2)委員会・チーム活動 ・ 毒劇物管理委員会 委員、R7.4～現在に至る ・ 恐竜学部 1 年次 学年副担任、R7.4～現在に至る
(3)学内行事への参加 ・ 大阪・関西万博プレイベントにおける恐竜学部 PR 活動（R7.7.13） ・ 主要大学説明会 2025（札幌）出展および個別相談対応（R7.7.27） ・ オープンキャンパス（企画、運営、学生座談会司会）（R7.8.21） ・ 新入生向けオリエンテーション（学年副担任として指導）（R7.4）
(4)その他、自発的活動など 高校訪問（入試広報活動）：福井工業大学附属福井高等学校（教員対象説明、R7.6.3）、敦賀気比高等学校（生徒対象 Web 説明、R7.7.24）、福井県立敦賀高等学校（生徒対象説明、R7.9.9）